

りょう Café のご案内



1. りょうCafé ー議会レポー

- 2018年7月6日(金) 19時~21時@中央公民館第3集会室
 - 2018年7月7日(土) 13時~16時@飯山満公民館第1集会室
- 平成30年第2回定例会の報告会です。今定例会で決まったこと、話し合われたことの注目ポイントを、石川りょうがわかりやすく解説します。

2. りょうCafé ーダイアログ

- 2018年8月17日(金) 19時~21時@中央公民館第8集会室
 - 2018年8月18日(土) 13時~16時@飯山満公民館第2・3集会室
- 船橋に住んでいて、変だなと感じること、良くなったらいいなと思うことを、ワールドカフェ形式で、自由に話し合ってみたいと思います。



*参加費無料。途中入退室はいつでも可能です。お気軽にご参加ください！
*日時等の変更の可能性があるので、石川りょう公式サイト、他のSNS等で必ずご確認ください。

この通信でご紹介できている活動内容は、ほんの一部です。詳細な内容やその他の活動は、石川りょうのブログを是非ご覧ください。

石川りょう アメブロ  で検索! または、QRコードはこちら →



プロフィール

【学歴】

栄光幼稚園、芝山西小学校、芝山中学校、八千代高校、立教大学法学部国際比較法学科、英国国立マンチェスター大学院、早稲田大学公共経営大学院

【職歴】

青年海外協力隊、国際連合インターン、開発コンサルタント、外務省(外交官)を経て、船橋市議会議員(一期目)

【資格など】

法学士、開発学修士、公共経営修士、TOEFL(CBT) 257点(TOEIC 915点相当)、仏語検定3級、プロジェクトマネジメントスペシャリスト(PMS)、政策学校「一新塾」32期生、ふなばし市民大学学校平成26年度ボランティア入門学科



▲ 毎朝、駅で通信を配っています。

連絡先

ご意見やご質問、ご要望を何でもお寄せください!

石川りょう公式サイト
<http://www.ishikawaryo.net>



もやっています。
発行者: 石川亮
住所: 船橋市芝山3-26-1-703
携帯電話: 080-6575-4711
固定電話: 047-463-2690
メール: info@ishikawaryo.net

船橋市議会議員

無所属

石川りょう通信

Vol.20

討議資料



平成30年第2回定例会のご報告

平成30年船橋市議会第2回定例会は6月27日に閉会しました。今定例会では、10月1日に迫った家庭系可燃ごみの収集回数削減(週3回→2回)に対して、保育園父母会関係者の方々から、3回を維持して欲しい旨の陳情が出されました。貴重な若い世代、子育て世帯の方々のご意見です。

私をはじめ、多くの議員は、①ごみの減量のため、②リサイクル推進のため、③ごみ処理経費の削減のために、収集回数の削減自体には賛成をしているので、収集回数の現状維持を求めるこの陳情に賛成することはできず、不採択となってしまうましたが、その内容には頷ける点が多々ありました。

その一つが、夜間収集地域における19時までというごみ出し時間について、共働き世帯や単身就労世帯の方々に、この時間までのごみ出しは無理だというご意見でした。

私は、これまでも、この時間をもっと遅くするべきだと主張し続けてきましたが、今回改めて議会の場で取り上げました。執行部の回答は、収集回数が3回から2回に減ることにより、収集業者の業務量も減ることが予想されるため、この減った時間分を後ろ倒して、ごみ出しの

時間を遅くすることを検討したいということでした。かなり具体的で前向きな答弁です。これまでしつこく主張してきた甲斐がありました。効果検証が必要なため、10月からすぐというわけにはいきませんが、近い将来、必ずごみ出し時間を変更されるものと確信しています。

そしてもう一つは、市内の公立保育園で保護者たちが持ち帰る決まりとなっている子どものオムツを各園で廃棄できるようにしてほしいという要望です。そもそもなぜオムツを持ち帰ってもらっているのか尋ねたところ、排泄物から子どもの健康状態を各家庭で把握することができるからという回答。持ち帰ったオムツをわざわざ家で開ける人がいるでしょうか? 布のオムツの時代ならまだしも、紙オムツが主流の現代では、この決まり事は時代にそぐわないものです。執行部は、今後、各園で廃棄できるよう見直していく方向で検討するという事です。



16億円もかけて、船橋市に美術館の設置は必要でしょうか？

平成30年船橋市議会第2回定例会での私の一般質問です。

現在、京成船橋駅のすぐ近くに民間のビルを建設する計画があり、船橋市はそのビルの中に美術館を設置することを検討しています。しかし、駅前の一等地なので地価が非常に高い。調べたところ、平成29年時で平米あたりおよそ80万円でした。船橋市は美術館の床面積を2,000平米は必要であると考えているため、ビルの中のスペースを購入するだけで16億円はかかる見込みとなります。美術館となると内装工事費も必要です。初期投資だけで16億円+αというお金がかかることとなります。そこからさらに、毎年の管理運営費が上積みされるのです。

これまでの石川りょう通信の中で何度も言及してきましたが、船橋市の財政状況は芳しくありません。少子高齢化の中で、医療や福祉にかかるお金が毎年1億円という単位で上がっています。昭和40年代から50年代にかけて一斉に整備した学校や公民館などといった市の施設の耐震化や建て替えなどのメンテナンスの時期を迎え、市の借金は膨らみ(年間150億円程度その返済に充てています)、市の貯金は著しく目減りしています(ピーク時に200億円以上あった貯金が今年度末には70億円程度になる見込みです)。このままの財政状況が続くと、**4年後には予算編成が困難になってしまう可能性まで指摘**されているのです。

船橋市が美術館を設置したい主な理由は、①船橋にゆかりのある近代の洋画家・椿貞雄氏の研究と、市が所蔵する同氏の作品公開の拠点とするため、②子どもたちへの美術鑑賞教育の拠点とするため、③市民によるアート活動の拠点とするためです。

このような市の考え方も理解できる部分はあります。美術館があるのであれば、あつた方が良くに決まっています。右肩上がりの成長時代であれば設置するべきでしょう。しかし、現代は成熟社会。あれもこれもこの時代から、あれかこれかの取捨選択をしなければならない厳しい時代です。そのような中であって、16億円+αという大金を使って美術館を設置することは難しいのではないのでしょうか？今の船橋市にそれだけの余力はありますか？と質問をしたところ、**市長からは、美術館の設置は自身の選挙公約であり、設置することで実現させたいことはある。しかし、厳しい財政状況も考えた上で、慎重に判断をしていきたいという答弁**がありました。



しかし、もう悠長なことは言っていられない状況にあります。ビルの建設計画は進んでいるため、予定通りにいけば、**今年中にこのビルの中に美術館を設置するか否かの決断をしなければなりません**。あと半年しかないのです。

美術館を持たない現在でも、船橋市はアート活動に力を入れています。年に2回開催している市所蔵作品展では椿貞雄氏の作品を公開していますし、同氏の作品をデジタル化することによりWEB上でも公開しています。さらに、美術専攻学芸員(市の職員)によるギャラリートークや市内小学校での対話型鑑賞教室、市民公募による美術展覧会なども開催しています。美術館というハコモノの設置よりも、このような活動をさらに充実・発展させることが大切であると私は考えます。

ふなぼし plus α

(1) 前貝塚町の歩道の障害物(棒)の撤去

前貝塚町には、水路の上をふさいで作った歩道が何百メートルにもわたって続いている場所があり、写真のような障害物(棒)が、30年以上前からこの歩道の真ん中に50本以上設置されていました。その理由は、当時、この歩道をバイクが走行したり、自動車が違法駐車を繰り返しており、それを防ぐために設置されたということでした。しかし、この歩道と車道との間にガードレールが設置されて以来、迷惑行為はすっかり無くなったにもかかわらず障害物(棒)は残ったままということで、今ではむしろベビーカーや車いすが通れなかったり、自転車や歩行者にとって邪魔なものになってしまっているという通報を近隣の方々からいただきました。そこで、船橋市役所道路部と下水道部に相談し、撤去していただきました。スムーズに歩行できるようになったという喜びの声をいただいております。



今回の件で感じたことは、やはり地域のことは地域で暮らしている皆さんが一番詳しいんだということ。我々議員は、そういった地域の皆さんの声を聞いて市政に反映していくことが基本であると改めて意識しました。これからも率直な皆さんの声をお聞かせください。

(2) 芝山3丁目交差点の「とまれ」マーク



今年4月の芝山西小学校の入学式の帰り際に保護者の方から、交差点の中に「とまれ」というマークが描かれていない箇所があるので描いてほしいというご要望をいただきました。子どもたちはこのマークの前ではしっかりと立ち止まり、とても効果があるということです。船橋市役所道路部に相談したところ、早速描いてもらいました。子どもたちの安全に資すると良いなと思います。